

開講年度	令和2年度	開講期間	前期
科目名	運動生理学		
担当教員	今野 哲男		
学年	2年	学科	夜間部 理学
単位数	2単位	時間数	30時間
学習目標	<p>わが国も人生80年という高齢化社会の時代を迎えて、健康の問題は避けて通れない大きな関心事になってきているが、生涯を通じて健康で活力あふれる人生を送りたいという願いは誰にも共通のものであろう。理学療法士は、本邦における予防医学の一端を担う職種である。本講義では、理学療法士が習得すべき運動生理学の基本事項について習得することを目標とする。さらに、筋肥大、筋力増強に関する最新の知見について学修する。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 筋収縮とエネルギー供給系 2. 筋線維の種類とその特徴 3. 神経系の役割 4. 筋の収縮様式と筋力 5. 運動と循環 6. 運動と呼吸 7. 運動とホルモン 8. 筋疲労の要因 9. 運動と体温調節 10. 運動と栄養 11. 身体組成と肥満 12. 運動処方 13. 運動と生活習慣病 14. 老化に伴う身体機能の変化 15. 国家試験対策 		
教科書	使用しない		
参考書	適宜紹介する。		
評価方法	筆記試験		
備考			

開講年度	令和2年度	開講期間	前期
科目名	整形外科科学		
担当教員	古志 幸		
学年	2年	学科	夜間部 理学
単位数	4単位	時間数	30時間
学習目標	臨床で多くみられる疾患を中心に、整形外科疾患の発生機序・診断・治療の基礎的な知識を理解する。また、運動器の理学療法の基盤となるようにそれぞれの疾患の知識を定着させる。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・骨、関節の構造、病態生理 2. 整形外科診断学(X線、MRI) 3. 外傷総論、組織の修復過程 4. 肩関節疾患① 5. 肩関節疾患② 6. 肩関節疾患③ 7. 肘関節疾患① 8. 肘関節疾患② 9. 肘関節疾患③ 10. 手関節疾患① 11. 手関節疾患② 12. 手関節疾患③ 13. 末梢神経障害(上肢①) 14. 末梢神経障害(上肢②) 15. 慢性関節疾患(退行性・代謝性) 		
教科書	『標準整形外科学』【編】中村利孝（医学書院）		
参考書	『整形外科学テキスト』【著】高橋邦泰・芳賀信彦（南光堂） 『整形外科手術後療法ハンドブック』【著】片田重彦（南光堂） 『STEP整形外科(STEP Series)』【監】高橋正明（海馬書店）		
評価方法	筆記試験・出席状況		
備考	範囲が広いため、予習・復習を行ってください。		

開講年度	令和2年度	開講期間	前期
科目名	神経内科学		
担当教員	三吉 舞子		
学年	2年	学科	夜間部 理学
単位数	2単位	時間数	30時間
学習目標	リハビリテーション医療の対象となる神経疾患の病態、検査、治療、リハビリテーションについて知識を深める。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 神経内科総論 2. 頭痛・てんかん 3. 感染性疾患 4. 脱髄疾患 5. 変性疾患① 6. 変性疾患② 7. 変性疾患③ 8. 末梢神経障害 9. 筋疾患① 10. 筋疾患② 11. 筋疾患③ 12. 認知症 13. 脳腫瘍 14. 小児神経疾患 15. まとめ 		
教科書	『標準神経病学』【監】水野美邦（医学書院）		
参考書	『ベッドサイドの神経の診かた』【著】田崎義明・斎藤佳雄（南山堂）		
評価方法	出席状況、授業態度、筆記試験		
備考	脳神経系の構造と機能をよく復習してください		

開講年度	令和2年度	開講期間	前期
科目名	小児科学		
担当教員	久保田 千代美		
学年	2年	学科	夜間部 理学
単位数	2単位	時間数	30時間
学習目標	正常小児の成長・発達と小児の疾病における特性を概説し、作業・理学療法士として小児の障害にも専門的に対応できる能力を習得する。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の成長・発育と発達 2. 小児の神経系・感覚系・運動系の発達 3. 新生児・未熟児疾患 4. 先天異常と遺伝病 5. 神経・筋・骨系疾患 6. 循環器疾患、呼吸器疾患 7. 感染症 8. 消化器疾患、内分泌・代謝疾患 9. 血液疾患、免疫・アレルギー疾患、膠原病 10. 腎・泌尿器系、生殖器疾患、腫瘍性疾患、心身症、神経症 11. 眼科・耳鼻科的疾患 12. 発達遅延を伴う疾患 13. 発達障害(多動性障害・広汎性発達障害) 14. 発達障害(学習障害・アスペルガー障害) 15. 不登校と子どもの虐待・重症心身障害児 		
教科書	『STEP小児科(STEP SERIES)』【監】畑江芳郎・小林良二・西基 (海馬書房)		
参考書	『シンプル理学療法学シリーズ 小児理学療法学テキスト』 【著】田原弘幸・大城昌平 (南江堂) 『イラスト小児科』 【著】守田哲郎 (文光堂)		
評価方法	出席状況、課題、試験により総合的に評価する。		
備考			

開講年度	令和2年度	開講期間	通年
科目名	理学療法評価学Ⅰ		
担当教員	植田 一輝		
学年	2年	学科	夜間部 理学
単位数	2単位	時間数	60(30)時間
学習目標	理学療法の臨床において治療方針を決めたり、治療の効果判定を行う場合セラピストは必ず患者評価を行わなければならない。理学療法評価についての臨床的理解を深める事を目的に、座学と実技で体得していく。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 評価総論(意義・目的) 2. 評価とICIDH・ICF 3. バイタルサインの測定(血圧測定を中心に) 4. バイタルサインの測定(各論・まとめ) 5. 形態測定(総論) 6. 形態測定(状況に応じた測定の展開) 7. 感覚系の構造と機能 8. 感覚検査(実技) 9. 疼痛検査 10. 反射(定義・反射弓・種類) 11. 反射検査(実技) 12. 筋トーヌス検査(筋トーヌスの神経学的基礎) 13. 筋トーヌス検査(実技) 14. 前期まとめ(実技1) 15. 前期まとめ(実技2) 		
教科書	『理学療法評価学』【著】松澤正 (金原出版) 『理学療法検査・測定ガイド』【編】奈良勲 (分光堂)		
参考書	『PT・OTのための測定評価 ROM測定』【監】福田修 (三輪書店) 『PT・OTのための測定評価 形態測定・反射検査』【監】福田修 (三輪書店) 『診察と手技がみえる』【編】古谷伸之 (メディックメディア)		
評価方法	筆記試験・出席状況		
備考	理学療法を行う上で、必ず必要になってきます。授業の復習をしっかりと行ってください。また、実技も合わせて実施しますので動きやすい服装で臨んでください。		

開講年度	令和2年度	開講期間	通年
科目名	理学療法評価学Ⅱ		
担当教員	植田 一輝		
学年	2年	学科	夜間部 理学
単位数	2単位	時間数	60(30)時間
学習目標	理学療法の臨床において治療方針を決めたり、治療の効果判定を行う場合に必要 な評価の中でも頻度の多い関節可動域測定を通して、正確に計測が実施できることを目 標とする。また、その結果からわかることを理解する。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・ROM総論 2. 関節構造・関節運動 3. ROM-T頭頸部 4. ROM-T体幹 5. ROM-T肩甲帯 6. ROM-T肩関節① 7. ROM-T肩関節② 8. ROM-T肘関節 9. ROM-T前腕・手関節① 10. ROM-T前腕・手関節② 11. ROM-T股関節① 12. ROM-T股関節② 13. ROM-T膝関節 14. ROM-T足関節・足部① 15. ROM-T足関節・足部② 		
教科書	『新・徒手筋力検査法』【著】HelenJHislop 他（協同医書出版社） 『理学療法評価学』【著】松澤正（金原出版）		
参考書	『PT・OTのための測定評価 ROM測定』【監】福田修（三輪書店）		
評価方法	実技試験		
備考	評価を行いやすい服装(Tシャツ・短パン)を事前に指定することがあります。		

開講年度	令和2年度	開講期間	通年
科目名	脳血管障害理学療法		
担当教員	伊吹 太郎		
学年	2年	学科	夜間部 理学
単位数	2単位	時間数	60(30)時間
学習目標	脳血管障害は理学療法士にとって常に関わる疾患の一つである。その病態、障害は複雑な構造を示す。障害を理解するうえで必要な構造と機能、病態や診断、評価など座学を中心に学習する。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・脳神経の構造と機能① 2. 脳血管障害の分類 3. 脳梗塞 4. 脳出血 5. 脳血管障害の症状① 6. 脳血管障害の症状② 7. 脳画像の見方① 8. 脳画像の見方② 9. 片麻痺運動機能検査(Brunnstrom test) 10. 片麻痺運動機能検査(上田式) 11. 筋緊張 12. 高次脳機能障害①(失行・失認) 13. 高次脳機能障害②(失語) 14. 脳血管障害に対するリハビリテーションの流れ 15. まとめ 		
教科書	『脳卒中理学療法の理論と技術』【編】原寛美 (メジカルビュー) 『脳卒中に対する標準的理学療法介入』【編】潮見泰藏 (文光堂)		
参考書	『ステップス・トゥ・フォロー』【著】Prtricia M.Davies (シュプリンガーフェアラク東京) 『脳卒中最前線』【編】福井圀彦 (医歯薬出版)		
評価方法	出席状況、授業態度、筆記試験		
備考	1年次に学習した「脳神経系の構造と機能」の復習および、評価額と並行して学習したことを復習しましょう。講義の順序は入れ替わることがあります。また、講義の回数、時間割の変更もあり得ますので、良く確認して出席日数に気をつけて下さい。		

開講年度	令和2年度	開講期間	通年
科目名	運動器障害理学療法		
担当教員	古志 幸		
学年	2年	学科	夜間部 理学
単位数	2単位	時間数	60(30)時間
学習目標	運動器障害理学療法における臨床遭遇率の高い疾患、国家試験出題頻度の高い疾患と共に運動器基礎を学ぶ事で臨床応用力を培う事を目標とする。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・総論 2. 運動療法 3. 肩関節解剖、運動学 4. 肩関節整形外科的検査 5. 上腕骨近位端骨折 6. 肩関節周囲炎 7. 肘関節解剖学、運動学 8. 肘関節整形外科的検査 9. 内側上顆炎 10. 手関節解剖学、運動学 11. 手関節整形外科的検査 12. 橈骨遠位端骨折 13. 胸郭出口症候群 14. 運動連鎖、バランス 15. まとめ 		
教科書	『ビジュアル実践リハ 整形外科リハビリテーション』【監修】神野哲也（羊土社）		
参考書	適宜		
評価方法	出席日数、出席態度、試験結果		
備考	解剖学、運動学、整形外科学、評価学等の理解が必要となり運動器障害理学療法の実技を行う授業になります。その為、自己復習をする事で授業にのぞんで下さい。		

開講年度	令和2年度	開講期間	通年
科目名	発達障害理学療法		
担当教員	伊吹 太郎		
学年	2年	学科	夜間部 理学
単位数	2単位	時間数	60(30)時間
学習目標	<p>胎児期あるいは出産時の問題から障がいを受けた子供達に対して、適切な評価及び治療が行えるための基礎知識を学ぶ。</p> <p>① 正常発達の理解：月齢に従って運動および精神発達を経時的に理解する。</p> <p>② 国家試験によく出題される遠城寺式と日本版デューク式発達スクリーニングテストを使用して、発達評価ができるようになる。</p> <p>③ 正常運動発達を運動学および原始反射・正常姿勢反射反応について学習し、正常発達と異常発達の理解を深める。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 1. 発達障害を学ぶことの意味について（障害児をもつ母親の言葉） 2. 運動発達理論 小児理学療法学テキスト 3. 遠城寺式乳幼児分析的発達検査法 および日本版デューク式発達スクリーニングテストによる正常発達の理解 4. 正常運動発達「小児理学療法学テキスト」 運動発達 5. 正常運動発達「小児理学療法学テキスト」 姿勢反射 6. 新生児 7. 1～3ヵ月 8. 1～3ヵ月 9. 4～6ヵ月 10. 4～6ヵ月 11. 7～9ヵ月 12. 7～9ヵ月 13. 10～12ヵ月 14. 10～12ヵ月 15. 国試対策 		
教科書	<p>『写真で見る 乳児の運動発達 生後10日から12ヶ月まで』 【著】Lois Bly（協同医書出版）</p> <p>『シンプル理学療法学シリーズ 小児理学療法学テキスト』 【著】田原弘幸・大城昌平（南江堂）</p>		
参考書	<p>『理学療法・作業療法のための神経生理学プログラム演習2 運動発達と反射 反射検査の手技と評価』</p> <p>【著】Marylou R. Barnes, Carolyn A. Crutchfield, Carolyn B. Heriza（医歯薬出版）</p>		
評価方法	出席状況、課題、試験により総合的に評価する。		
備考	<p>・運動発達、姿勢反射についてはイメージが湧きにくいかもしれませんが、「正常な発達の経過」を理解しておくことは小児疾患だけでなくその他の疾患を持つ対象者を評価・治療する際に助けとなります。</p> <p>・予習は各講に必要な解剖学、運動学を見直すこと。各講で国家試験問題を配布します。授業の復習として家庭学習を行って下さい。</p> <p>・授業の進行状況によっては追加授業を行うこともあります。出席率に換算されますので、注意して下さい。</p>		

開講年度	令和2年度	開講期間	前期
科目名	物理療法学		
担当教員	植田 一輝		
学年	2年	学科	夜間部 理学
単位数	1単位	時間数	30時間
学習目標	理学療法における物理療法の位置づけ・分類・生理学的効果を理解する。 また適応と禁忌、治療方法を把握し、適切な臨床判断が行えるようにする。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、物理療法総論 2. 組織の病態理解(炎症と修復・疼痛)① 3. 組織の病態理解(炎症と修復・疼痛)② 4. 温熱療法各論(ホットパック) 5. 温熱療法各論(パラフィン) 6. 寒冷療法 7. 電磁波療法(総論・極超短波・超短波) 8. 電磁波療法(超音波) 9. 電磁波療法(紫外線・赤外線) 10. 電磁波療法(レーザー) 11. 電気療法(疼痛コントロール) 12. 電気療法(神経筋電気療法) 13. 水治療法 14. 牽引療法 15. 国家試験対策 		
教科書	『物理療法学』【監】千住秀明 【編】沖田実 (神陵文庫)		
参考書	『理学療法士のための物理療法臨床診断ガイドブック』【編】木村貞治 (文光堂)		
評価方法	筆記試験・出席状況・出席態度等		
備考			